

【本県の現状・課題】

○ライフステージに応じて楽しめるスポーツ機会の提供

成人の実施率（週1以上）H28：35.2%→R4：49.9% 子どもの実施率（60分以上/日）
H29：44.7%→R4：41.1%

- ・成人のスポーツ実施率は上昇しているがまだ低い
- ・子どものスポーツ実施率は減少傾向
（体力や意欲・集中力の低下、生活習慣病のリスクの増加）

○学校の体育・運動部活動の充実

- ・少子化で学校単位での部活動維持が困難
- ・部活動改革の推進に向けたガイドラインの作成や実証事業の実施

○スポーツに関わる人材の育成

- ・スポーツ指導者研修会等の開催により、指導者や運営スタッフの資質が向上
- ・指導者の高齢化（担い手不足）

○メダリスト育成への支援・強化策の確立

- ・オリンピックメダリスト1名、出場者11名を輩出
- ・パラリンピック出場者4名を輩出

○ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の充実・強化

- ・令和4年とちぎ国体で天皇杯順位40位と競技力が低下
- ・YMAGATAドリームキッズ修了生による国際（全国）大会での活躍

○スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性（インテグリティ）の向上

- ・スポーツ団体のガバナンス強化やドーピング防止活動を実施

○プロスポーツの活用、スポーツツーリズムの展開等による地域の賑わいづくりの推進

- ・国内トップリーグに参加するチームの活躍やスポーツイベント等により地域のにぎわいづくりを創出（モンテディオ山形のサッカー教室の実施、モンテディオ山形・山形ワイヴァンズ等の応援給食の実施）
- ・山形県スポーツコミッションを活用し、県内へのスポーツ合宿やスポーツイベントの誘致を実施（宿泊施設の情報提供、合宿支援の相談窓口設置）

○スポーツ施設等の整備と有効活用

- ・県内に唯一の競技スポーツ施設の整備を支援（蔵王ジャンプ台、山形市総合スポーツセンタースケート場）

○アスリートの県内定着・回帰及び活躍の場の拡充

- ・企業スポーツ振興協議会による企業チーム及び選手への支援により活躍の場を拡充

スポーツを 取り巻く情勢

○少子高齢化と健康 寿命の延伸

○SDGsの推進
健康増進の推進
多様性・ジェンダー
平等の推進

○ウェルビーイング
身体的・精神的・社
会的健康の向上

○働き方・ライフス
タイルの変化
余暇の活用方法

○AIの進展
VR、ARの活用
選手のパフォーマンス
の向上

○ポストコロナ
スポーツイベントの
通常開催

【検討の方向性】

①部活動改革を機に地域スポーツ全体のあり方を見直し、性別や年齢、障がいの有無などに関わらずスポーツを親しむ機会の提供を図る必要がある。

②部活動改革を推進する中で、子どもたちがスポーツに親しむことができる機会を確保していく必要がある。

③ジュニア期からの一貫した指導や優れた指導者を養成・確保することで、国際大会や全国大会で活躍する選手を育成する必要がある。

④地元プロスポーツチームとの連携・協力や、スポーツコミッションを活用により、地域活性化を図っていく必要がある。